

## 独歩と那珂湊

佐々木靖章

独歩の年譜を見ると、明治四十年九月三日から十一月四日まで（一時帰京）茨城県湊町牛久保の杉田恭助の別荘に滞在したことになっている。その建物が残っていると聞いて見に出かけた。文学散歩まがいのことは得意でないが、水戸に住み始めたからには無関心でもおれない気になったのである。

案内していただいたのは那珂湊市西塚原在住の小泉六朗氏で、若い頃独歩の愛読者であつたという。今年教育学部国文科を卒業した小泉周二君の御尊父である。独歩の住んでいた杉田別荘は六朗氏のお宅から十分もかゝらない所で、現在東塚原五六五番地にあたる。独歩は書簡に牛久保と書いており、年譜もそれに従っているが、塚原とというのが正しい地名らしい。牛久保というのは道を隔てた西側一帯をいう。しかし、六朗氏の話では、現在の東塚原を含めて牛久保と呼ばれていたとのことである。杉田別荘そのものは近くに移築され、跡には別の家が二軒たち、その間は麦畑となつてゐた。東側はすぐ崖端で、眼前には太平洋が広がり、右手には那珂湊の港口が見渡せた。

独歩がこの地に來たのは病氣療養のためであつた。明治三十九年、第三小説集「運命」によつてやつと作家としての名声をえ、ついで独歩社をおこして念願の事業を始めたにもかゝらず、結核におかされ一時湯河原に静養しなければならなかつた。一方独歩社の経営もおもわしくなく、四十年四月に破産。病勢もつのもり、新聞連載中の小説「暴風」も執筆中止のやむなきに至つた。医者からは強く転地療養をすゝめられた。当時結核はとくに治療法はなく、海岸などへの転地療養が最も効果ありと信じられていたのである。そこで、独歩は独歩社で働いていた小杉未醒（放庵、歌人、画家）の親友、杉田恭助の別荘を借りることにしたのであつた。杉田は水戸上市に住む素封家で煙草商を営み、その後独歩に物質的援助も与えている。彼について独歩は、「杉田恭助は好箇の紳士なり。余甚だ負ふ所多し。渠は余と親交あるに非ず。その湊町以来余の為に尽したる恩誼は決して忘る可からず。而かも一言恩を売るの態なく、黙々焉として常にわが為めに力を盡さる。かくれたる君子なり。後に伝へ可からず。」（「病状録」）と記している。

湊町での独歩の生活の様子は書簡からほほりかがわれる。水戸と湊町との交通は、那珂川を利用している。一人別荘にこもつた彼は、好きな酒を飲む気力もないほど体力衰え、始終高熱に悩まされ、回復への期待を一方には持ちながらも、死に近づきつゝある我が身を自覚していたようである。「比海浜で動けなくなるのはイヤ、此のカタマでは当分斃んでゐる。弱死なれば瓦礫で亦（オ）弱死者情願何處（どこ）でも弱きなり、南無弥多不救歩等と書簡に記毎日、多作品執筆蝕むか散裝れ統計を残ぬ

毎日、あせりと孤独にさゆままれ続け、残して来た家族の生活も心配であり、一月もすると療養よりも帰京を思う日が多くなつたようである。

杉田の別荘のあつた海岸ぞいの土地は、古墳（円墳）が多くあるため塚原と呼ばれたのであろう。独歩の住んでいた頃、周囲にほとんど家なく、畑と篠のやぶにおゝわれ、海からはまともな風が吹きつけた。「今日は暴風雨にて断崖の上の孤屋は疾風と強雨の包圍攻撃を受け終日戸を閉ぢ薄暗き中に籠居致候」（書簡）という言葉でもわかる通り、しばしば訪れる秋の嵐の中にあつては、療養どころではなかつたことがわかる。

別荘をみた後、杉田別荘を譲りうけて移築して住んでいる鈴木氏のお宅（東塚原七十二番地）におじゃました。移築したものの海戦前のことだという。柱なども取り替え、昔の姿をうかがうのば困難だが、大棟の傳い様を屋根裏に面影をとどめている。もとの家は壁根の移度おきさい。関と二間程度の小さい家だつたという。

庭の石燈籠と玄關前の踏み石も別荘と一緒に持つて来たものだということであつた。

杉田別荘滞在中の生活を素材に書かれた作品に「渚」（明治40<sub>2</sub>）に「文章世界」（がある。

と生がT君に送る手紙という形式で、三つの小品よりなつてゐる。「病状録」によると、十数篇で一冊の小冊子によるつもりであつたらしい。しかし、帰京後病状は悪化、四年一月二月茅ヶ崎の南湖院に入院、六月そこで没した。死後出版の第六文集に「渚」と題したのは、絶筆となつた作品の名称によつたのである。

独歩が日々崖上より見下し時に散策した海岸は、姥のふところ（地元の人はおんばのふと）と、唾ばちの海跡、海跡水浴の適地である。祭用の女然りけな。もみられた。をては海岸、動車道、梅水浴の適地である。計画をきいた。そ紙を晒して独歩の眺めた自然を、襷をされる衣、羅氏。六朗氏の厚いものでなしに感謝しつつ、那珂湊をあ

とにした。  
なお、「近代文学と茨城」の巻末解説によると、独歩と那珂湊および杉田恭助との関係にわたる詳細な研究は、故木戸清平氏によつてなされていたらしいが、原稿所在仕明で公表されるに至っていないとのことである。